

自己評価報告書(最終報告)

報告者

教員養成特別コース
／葛上 秀文

■平成23年度の目標に対する自己点検・評価

Ⅰ. 学長の定める重点目標

Ⅰ－1. 教育大学教員としての授業実践

本学の目的は、豊かな教養と教育実践力をもった教員を養成し、学校現場に送り出すことにある。このことを実現するには、教科専門・教科教育・教職専門等の各分野の授業が、学校現場の実践と関連性が保たれていることが必要である。あなたは、教員養成大学の教員として、本年度はどのような授業計画を立て実現しようとするのか、これまでの取り組み状況を総括し、具体的に示して欲しい。

1. 目標・計画

教職大学院が設置され、4年目を迎える。教師としての専門性を高めるため、他の授業科目と関連しながら、授業実践を進める。また、学部において、学校教育実践コースが始まる。そのカリキュラムを、コース教員と協力しながら、改善し、授業実践を図る。

2. 点検・評価

教職大学院の授業科目において、現職教員学生と学卒学生が協働で学ぶ機会を試験的に実施している。具体的には、授業実践において、学卒学生の指導案作成、模擬授業、授業後の振り返りを行うときに、現職教員学生も参加し、指導を深めている。これにより、学卒学生の実践力の向上、現職教員学生のメンター機能の向上が図られている。コース教員、他コースの教員と協力し、授業改善を図り、一定の成果が得られた。

Ⅱ. 分野別

Ⅱ－1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

教員養成特別コースの教員採用率を高めるため、コース教員と協力して、面接、模擬授業等の指導に当たるとともに、実習等の巡回指導を充実させ、院生の実践力の向上をさらに図っていく。

2. 点検・評価

教員採用対策として、6月以降、定期的に面接指導、小論文指導などをコース教員、教職大学院のその他の教員と連携して実施した。
教育支援については、I-1のところで記載したような取り組みを進めた。
1年次後半より、採用試験を意識した取り組みを進め、模擬授業の充実、場面指導の取り組みなどを取り入れるなどの改善を進めた。

II-2. 研究

1. 目標・計画

教職大学院のカリキュラムのあり方、特に、学卒対象のカリキュラムのあり方について、研究を進める。
また、高知県教育委員会との共同事業、高槻四中校区における研究開発に対する研究を進める。

2. 点検・評価

昨年度までの科研で取り組んだ香川県の学力政策の事例について、原稿執筆した。
また、高槻四中の研究開発の事例についても、データ収集を順調に進めている。
鈴鹿市における連携事業の取り組みをまとめ、その成果を研究紀要にまとめた。

II-3. 大学運営

1. 目標・計画

学部入試委員、大学院におけるFD委員会委員を務める。

2. 点検・評価

学部入試委員、大学院におけるFD委員会委員の業務を遂行し、大学運営に貢献した。

Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

近隣の市町村の学校評価の支援事業を今年度も継続する。

2. 点検・評価

近隣の市町村の学校評価の支援事業について, 今年度も継続し, 30校以上からの依頼があり, それに応える体制を整え, 学校との連携を深めることができた。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

コース教員と協力し, 定員確保に向け, 大学訪問などを精力的に行った結果, 平成24年度入学生は11名と定員を超えることができた。
次年度は, さらなる定員確保に努めたい。